

本気で学ぶ 丈夫で 心豊かな 本庄っ子

ほんじょう



令和4年度2月号
三田市立本庄小学校

「今月のほんじょう」はNo. 47まで掲載中 上のQRコードをご利用ください。

寒さに負けず頑張っています

校長 藤田 洋子

3学期もあっという間にひと月が終わりもう2月。立春が目前に迫ってきました。春の暖かさが待ち遠しい今日この頃ですが、1月末には、10年に一度と言われる大寒波に見舞われました。本庄小学校への影響は三田方面からのバスの到着が約20分遅れたくらいでした。全員無事に登校し、早速の雪遊び。担任も一緒に大はしゃぎでした。11月から始めた「本庄っ子マラソン」も引き続き水曜日の業間休みに行っています。週1回の取り組みで、残り回数もそれほどはありませんが、少しでも子どもたちの体に刺激を与えることができればと思っています。

さて、2月2日には本庄小学校の入学説明会を予定しています。入学予定園児を5年生がエスコートし、1・2年生が用意してくれているお店でゲームを楽しんでもらいます。先月には長坂中学校での入学説明会に6年生が参加してきました。着々と次年度に向けての取り組みと、上の学年から下の学年へと引き継ぐ取り組みが進められています。また、今月中には保護者のみなさまにご記入いただいた学校評価アンケートの分析内容をお知らせいたします。本庄小学校の取り組みがよりよいものになるよう、丁寧に分析し、次年度につなぎたいと考えています。

地域防災訓練ありがとうございました (当日の様子は、「今月のほんじょう」でもご覧いただけます)

まちづくり協議会のみなさまと一緒に、2学期半ばから打ち合わせを重ねてきました。1月14日当日は朝からあいにくの天候でしたが、みなさまのご協力を得て防災体験をさせていただくことができました。今年で2回目の地域防災訓練でした。低学年は低学年なりに、高学年は高学年なりに身の安全を確保する方法や、緊急時の行動の仕方を学ぶ機会となりました。油火災実験では、小さいケースを台所に見立て、加熱により、食用油が発火する様子を確認し、水で消火しようとすればどのようなことが起こるのかを実験しました。水を入れた瞬間、バチバチバチッという音とともにケース内の炎が大きくなり、体育館出入口の上方まで届いたのちに消えました。これが家の台所だったら…とその危険性を再確認しました。防災倉庫に保管されている用具の見学では、簡易トイレを組み立てたり、発電機や救急用具を見たりして、もしもの時にどのように使うのかを説明していただきました。他にも、心肺蘇生のための胸部圧迫、水消火器を使ったの消火訓練、非常災害時に活用できる缶詰された豚汁の試食などを保護者のみなさまと一緒に体験しました。



(シェイクアウト訓練の様です)

閉会式の際には体育館の前方にスタッフとして関わって下さった地域のみなさまに並んでいただきました。多くの方々に支えられて今回の取り組みができたのだと、子どもたちも実感できたのではと思っています。防災訓練を地域で行う意味を子どもたちにも話しましたが、災害は自分だけではなく、地域全体に起こります。避難所で「あっ、このおじちゃん(おばちゃん)訓練の時に見たことがある!」と知った顔が見えるとホッとします。普段からのお付き合いを大切にしていきたいものですね。

全校道徳3回目、お題は「楽しい節分」

1月25日の朝、全校生での縦割り班活動「全校道徳」を実施しました。今回は「みんなで想像してかいてみよう」です。お題「楽しい節分」からイメージを膨らませ、絵を描いていきました。まずは1分間の作戦タイム。どんな絵を描いていくか班で相談します。続いて、高学年から1分ずつ模造紙に絵を描いていき、最後は班全員であちこちから書き足していきました。鬼を大きく描いていく班が多い中、1班は定規を使って用紙の中央に何やら四角いものを描いています。そう、豆まきの枱でした。紙面いっぱいの様々な表情の鬼、楽しく豆まきしている様子、恵方巻。どの班もワイワイ話をしながら楽しく仕上げていきました。最後は校長賞、教頭賞、各賞の発表です。全員で楽しみ、盛り上がり、本庄小学校の一体感を味わうことのできる時間でした。



この全校道徳は、4つの縦割り班を活用して、高学年から低学年までが互いのことをよく知り、また気遣い、集団の中でのやさしさや頑張りを認め合える仲間づくりとして学期に1回ずつ行ってきました。6年生にとっては、小学校生活で最後の全校道徳。班のみんなで描いた絵を囲んで記念撮影をしてこの時間を終えました。各班の写真を保健室前の廊下に掲示しています。授業参観でお越しの際にぜひご覧ください。

地域のみなさんに支えられて

1月20日に5・6年生がウド小屋の骨組みに藁をかけていく作業をしました。実はこの小屋、昨年度よりも約2m短くなっています。児童数の減少で、大掛かりな作業は困難です。大人の手もかけにくい状況にあることを前澤さんに相談したところ、地域の林山さんと一緒に小屋を短くしてくださいました。本当にありがたいことです。さて、藁かけの作業ですが、11月にロープに編んでいた藁を竹の骨組みの下から順にくくりつけていきます。できるだけ隙間がないように皆で協力して声を掛け合ってくくりつけていきました。高いところは手が届きにくくなります。小屋の中に足場を組んで作業しました。一番上の屋根の部分は前澤さんにお世話になりました。次は、畑からウドを掘り起こして、小屋の中に伏せこみ(移し替え)ます。予定していた日は雪の影響で活動が困難になったため、2月1日に延期となりました。藁屋根のウド小屋を使ってウドを育てるのは本庄で代々受け継がれてきた取り組みです。昨年は、天候の関係で収穫の時期が遅れ、収穫時には食に不適な状態になってしまっていました。今年は夏場の発育不良がどのように影響するか、少し心配です。卒業までに収穫できればいいのですが…。早く暖かくなりますように。



1月25日には3・4年生が保護者のみなさんと一緒に味噌づくりをしました。指導を地域の福井さんがしてくださいました。前々日に豆を水につけてふくらまし、前日に3時間かけて煮て柔らかくしておきました。当日は事前に福井さんが作ってくださった米こうじと豆を混ぜ合わせ、すりこ木を使ってコンコンついてつぶしていきます。子どもの手ではなかなかつぶすことができず、手伝ってもらいながら作業しました。JAの峯山さんも器具を用意して手作業でまかなえないところをサポートしてくださいました。すりつぶした味噌は空気を抜くために味噌樽に投げつけて仕込んでいきました。味噌の上に酒粕をのせたり、ふたを消毒したりして雑菌を予防し、給食室に保管しました。次の作業は1年後。タッパーに小分けしていきます。仕上がりがとても楽しみです。



ウドも黒豆も地域のみなさんの力がなくては成り立ちません。継続するために、人数に見合う活動にする必要もあります。知恵と工夫で人の思いと伝統をつないで、よりよい地域学習を進めていきたいと思っています。